

2007 年度前期授業アンケートまとめ

一 2007 年度前期授業アンケート結果の概要

1 2007 年度の実施趣旨と従来との変更点

2007 年度の授業アンケートは、FD 委員会での検討の後、実施目的や調査項目を整理・改善し実施した。

【授業アンケート実施目的】

- (1) 科目担当者が個別に授業改善を行うための資料、また教育自己点検活動のための資料を得る。
- (2) 教員相互に、関係科目の改善について課題を共有し改善を行う資料とする。また、アンケート結果を起点として組織的に教育改善に取り組む機会を提供する。
- (3) 授業運営の学生参画の必要性を意識し、学生の学習姿勢・理解度・満足度を知るための資料を得る。また、学生の積極性と責任意識を喚起する機会を提供する。
- (4) 学部・学科としてのカリキュラム改善のための資料を得る。
- (5) 大学全体として教育力の向上に必要な点検資料を得る。

* (参考) 2006 年度までの授業アンケート目的

- 1) 現行カリキュラムがどのように機能しているのかを検証する。
- 2) 授業に関する説明責任を大学と授業担当教員が認識し、授業に対する学生の受け止めを確認・分析することにより授業改善に活かす。

【授業アンケート項目】

以下の点で改善をはかった。(詳細は下記基本データを参照)

- ①項目整理と項目の区分け
- ②調査文面の改善
- ③項目の追加と削除

2 調査対象

今回の授業アンケートの調査対象科目は 2006 年度後期開講科目および通年開講科目の全科目を対象とした。アンケート回答者は受講登録をしている学部学生および大学院生とし、原則として特別聴講学生、科目等履修生は対象外としたが、担当教員の判断で特別聴講学生および科目等履修生のデータが一部算入されている場合がある。

3 調査期間

調査期間は 2007 年 7 月 9 日 (月) から 7 月 30 日 (月) の 3 週間とした。

アンケートは授業時間を 15 分ほど利用し、学生が選択式の回答と自由記述が可能な時間を保証した。教員が配布と説明をおこない、その時間内に回収する集合調査法を採用した。

*2007 年前期の回収率は全体で 78.66%となった。

(参考: 2006 後期 73.63% 2006 前期 78.79% 2005 年後期 64.33% 2004 年前期 72.42%)

4 調査設計

調査項目の基本構造は前年度までと同じである。

- (1) 学部・学科・回生・コースなどの基本データ
- (2) 授業についての選択項目 16 項目 17 問
- (3) 授業についての自由記述 4 項目 4 問

基本データおよび選択項目については、マークシートを採用し、データ処理をおこなった。自由記述は教学向上を目的に、授業担当者に返却した。

二 2007 年度前期授業アンケート結果の特徴と傾向

I 全体・講義形態別の集計結果 → データ①

2006 年度は前期・後期を通じて調査を行ったため、本年度より対応する前年度結果との比較が可能になった。一方、2007 年度は調査項目の整理と文言の変更を行っている。この点を前提に過年度の数値との差を比較する。

a. 全体の「総合」平均値は横ばい。「授業外学習」のポイントが上昇。

- ・全体「総合」のポイントは 4.03（前年度 4.01）と横ばいであった。
- ・「授業外学習」のポイント 3.69 となり、0.34 ポイント上昇した（06 前期は 3.35）。

＊「授業外学習」の項目の変更

2007 「⑤教員は、授業外での学習方法（資料・課題など）を示していた」（区分 A：教員の授業方法）

2006 「⑧この授業では授業学習（参考資料・課題・予復習など）方法が示された」

b. 講義系・演習系で「授業外学習」のポイントが上昇、語学系で「理解」のポイントが下降

- ・講義系と語学系の「総合」は 06 年前期と同値。演習系は 4.26 で 0.09 微増。
- ・「授業外学習」について講義系は 3.45 で 0.36 ポイント上昇、演習は 4.04 で 0.33 ポイント上昇した。
- ・「理解」について語学系 3.75 で 0.32 ポイント下降した。

＊「理解」の項目

2007 「⑨私は、この授業で学んだ内容をよく理解することができた」（区分 B：あなたの理解状況）

2006 「②この授業での説明や指示は理解しやすかった」

c. 新項目「改善」「自主学习」は他項目と比較して低い数値。

- ・新項目の「改善」「自主学习」は全体・講義形態別すべての集計で、自主学习が 1 番目、改善が 2 番目に低い数値となった。

II 学科別の集計結果 → データ②、データ③

a. 学科別の全体集計で、歴史、現マネは「総合」その他項目でも 06 前期より上昇。

- ・歴史 4.60 で 0.61 ポイント上昇、現マネは 3.94 で 0.20 ポイント上昇。その他の学科は横ばいまたは微減・微増。
- ・項目を詳細に見ると、歴史は「出席」以外すべての項目で 0.5 ポイント以上上昇し、特に「授業外学習」4.50 で 1.22 ポイント上昇、「将来」項目で 0.95 ポイント上昇した。現マネは、「配慮」「理解」「出席」「学習意欲」をのぞくすべての項目で、0.2 ポイント以上上昇し、特に「授業外学習」3.70 は 0.42 ポイントの上昇、「私語・環境」3.95 は 0.45 ポイント上昇した。
- ・文化財学科「総合」は 3.98 で 0.17 ポイント下降した。

b. 学科別の学年別ゼミ集計、1 回生では児童で高い数値。 現マネ「総合」は 1, 2 回生ともに上昇。3 回生も高い数値。

- ・各学年のゼミ「総合」は、年次が上がるほど平均値が高くなっている。新学科・児童 1 回生 4.76 は 1 回生平均 4.31 を 4.5 ポイント超える高い数値であった。
- ・学科別全体で上昇した現マネ「総合」を学年ごとにゼミで見ると、1 回生 4.22 は児童・看護に次いで高く、2006 年度前期と比べ、0.34 ポイント上昇している。2 回生 4.33 も 0.62 の上昇、3 回生 4.44 は英コミ、日文（書道以外・書道）に次いで高かった。
- ・学科別の集計で大きく上昇した歴史の各回生ゼミは、「総合」で学年平均を上回るものの、06 年前期と比べて大きく変わらない数値であった。しかし「授業外学習」の項目は、1～4 回生すべてのゼミで上昇している。

三 基本データ

1. 基本データ

以下の6項目とした。

- ①科目名 ②クラス ③学部(院)・学科 ④回生 ⑤コース ⑥科目コード

2. 授業についての選択項目

下表の16項目について[1: とてもそう思う 2: まあそう思う 3: どちらともいえない 4: あまりそう思わない 5: まったくそう思わない]のうち、もっともよくあてはまると思うものの一つのみマークさせ、[補助資料]については特によかったものがあった場合に 1)板書 2)レジュメ 3)プリント 4)OHP 5)ビデオ 6)スライド 7)パソコンのうちから一つのみマークさせた。

質問の意図を明確に理解させるために、各項目に[明瞭]などのようにキーワードを設定した。

また、2007年度より以下の変更をおこなった。

①項目整理と区分

項目の区分としてA. 教員の授業方法について、B. あなたの理解度について、C. あなたの授業態度について、D. 総合・その他の別を設け、順序も該当区分ごとに整理した。また、別紙のように項目の調査趣旨を明確にした。

②調査文の改善

文言も調査趣旨を明確にするため、「教員は・・・」「私は・・・」など主語を明確にした。

③項目の追加

【改善】項目を追加し、開講期中の改善度を測る項目を追加した。授業態度に関する項目では【自主学习】を追加し、授業への積極性を図る項目を追加した。

④項目の削除

【到達度】【補助資料】は必ずしも統一アンケート項目である必要が無いとの理由で削除し、自由項目例として列挙した。

[A. 教員の授業方法について]	
①教員は、指示や授業内容の説明を、はっきりと聞き取りやすく行った。	[明瞭]
②教員は、この授業の学習目標をわかりやすく示していた。	[学習目標]
③教員は、十分な準備を行い意欲的に授業を進めた。	[意欲]
④教員は、学生が自主的に質問や意見を述べられるよう配慮していた。	[配慮]
⑤教員は、授業外での学習方法(資料・課題など)を示していた。	[授業外学習]
⑥教員は、授業を妨害する私語等を少なくするよう環境を保っていた。	[私語・環境]
⑦この授業の内容は、将来役に立つものであったと思う。	[将来]
⑧この授業で感じた授業方法の問題点は、授業期間中に改善された。	[改善]
[B. あなたの理解状況について]	
⑨私は、この授業で学んだ内容をよく理解することができた。	[理解]
⑩私は、この授業の内容に興味・関心を持つことができた。	[興味]
⑪私は、この授業から新たな問題意識や知的好奇心を刺激されることが多かった。	[触発]
[C. あなたの授業態度について]	
⑫私は、この授業にまじめに出席した。	[出席]
⑬私は、この授業に関して教員の指示に従い熱心に勉強した。	[学習意欲]
⑭私は、教員からの指示以外に、自主的に学習して取り組んだ。	[自主学习]
[D. 総合・その他]	
⑮この授業は総合的にみて、良い授業だったと思いますか。	[総合]
⑯☆各担当教員の自由設定項目	[自由]

3. 授業についての自由記述項目

上記 16 項目への選択項目以外に、自由記述式で授業について以下の 4 つの質問を設定した。

- ①この授業のどの点がよかったですか。
- ②この授業のどの点がよくなかったですか。
- ③良くなかった点を改善するためにはどうしたらよいと思いますか。
- ④その他この授業で感じたことを自由に記入してください。

4. 回収・集計方法

(回収) 以下の方法で回収を依頼した。

①アンケート用紙の配布は封筒で行う。②授業内での回収については、基本的に、学生自身がアンケート用紙を封筒へ直接入れるように科目担当者が指示する。その際、回収封筒の場所を指示する又は教室内に封筒を回す、あるいはクラスサイズが大きい場合、適宜、列の一番後ろの学生が回収を行うなどして、学生が直接封筒へ入れるよう指示する。③その際、出席者すべて回収が終わるまで教室から出ないよう指示をする。④提出については、授業終了後、授業担当者が持参して提出する。

(集計) 回収した封筒について、大学で集約し、業者(京都電子計算)へ渡す。①基本データと、②授業についての選択項目を機械(OMR)で読みとり、②については読みとり時に[とてもあてはまる]を 5 点、[まあそう思う]を 4 点、[どちらともいえない]を 3 点、[あまりそう思わない]を 2 点、[全くそう思わない]を 1 点に置き換え、各種分析をおこなっている。授業についての自由記述項目については集計や統計処理は一切おこなっていない。集計後、授業担当教員に担当科目のアンケート結果へのコメントや受講者へのメッセージを依頼した。

5 回答者のプロフィール

アンケート対象科目の受講登録者総数と、有効回答数および有効回収率は下表のとおりである。

	全受講登録者	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生以上	大学院生	回生不明
登録者数	25430	10003	8048	5446	1767	166	0
有効回答数	20003	8439	6255	3828	889	122	470
有効回収率	78.66%	84.36%	77.72%	70.29%	50.31%	73.49%	-

2006 前期(78.79%)とほぼ同様の回収率であった。

(参考：2006 後期 73.63% 2006 前期 78.79% 2005 年後期 64.33%)

*有効回答数=登録者数 - 欠席者

*有効回収率=有効回答数/登録者数

*2006 年度以降は、以下のように集計方法を改善したため、回収データ中の無効(不明)データは 0 である。

1)読みとり方式を OCR から OMR に変更し読み取り精度を高めた。

2)科目コードと所属を、マークに加えて科目ごとに袋で管理し無効(不明)データを無くした。

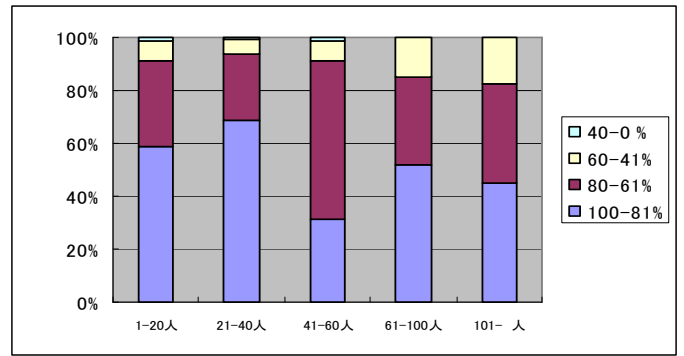
回生、所属別回収率

	英コ	日文	歴史	文化財	児童	文化政策	現マネ	看護	院文	院政	学科不明
登録者数	1721	3569	4368	2222	1657	4367	3252	3829	112	54	279
有効回答数	1343	2844	3370	1741	1513	3080	2335	3291	80	51	355
有効回収率	78.04%	79.69%	77.15%	78.35%	91.31	70.53%	71.8%	85.95%	71.43%	94.44%	-

児童教育学科(1回生)の回収率が非常に高かった。

クラスサイズ別回収率

回収率 クラスサイズ	100-81%	80-61%	60-41%	40-0%	合計
1-20人	124	70	16	2	212
21-40人	122	45	10	1	178
41-60人	22	42	5	1	70
61-100人	28	18	8	0	54
101-人	29	24	11	0	64
計	325	199	50	4	578



6. 教員による⑩自由設定項目の利用状況

利用率は 3.5% と低い数値だった。20 科目 / 578 科目 (自由設定項目の利用科目 / 総科目)
 * 昨年前期は約 5%

四 その他の集計結果

1. 学科別「総合」ポイント分布 → データ④
2. 外部委託科目の結果 → データ⑤
 - a. 英語系科目の結果
 - b. 情報系科目の結果
3. 「総合」項目と他の項目との相関関係 → データ⑥

以上